

省エネ型降雪センサー



間欠運転方式

凍結信号出力回路付

取扱説明書

型番

外気温度検知型 凍結信号出力

SHK-751 (盤内組込型)

SHK-752 (屋外取付型)

SHK-753 (屋内取付型)

SHK-754 (屋内外兼用型)

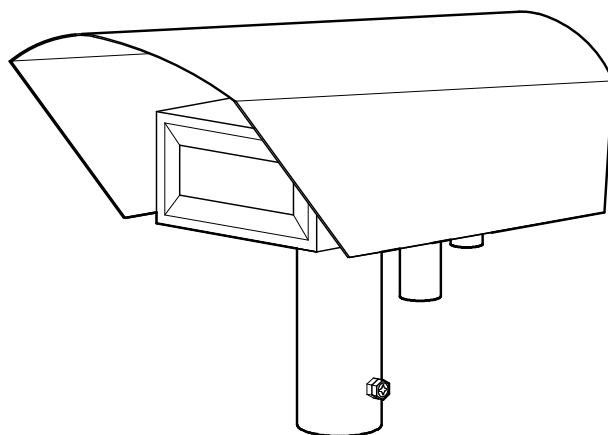
路面温度検知型 凍結信号出力

SHK-751-I (盤内組込型)

SHK-752-I (屋外取付型)

SHK-753-I (屋内取付型)

SHK-754-I (屋内外兼用型)



- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく最適にご使用いただきますようお願い申し上げます。
- この取扱説明書は大切に保管し、必要なときお読みください。

注 意

- ・ 本製品の絶縁抵抗測定を行う場合は、必ず250V以下の絶縁抵抗計をご使用ください。
- ・ 制御盤等の絶縁抵抗測定を250V超えの定格測定電圧を印加して行う場合は、必ず本製品の電源スイッチをOFFにしてから測定してください。

も く じ

はじめに	1
I 警告表示について	2
II 安全上の注意	3
III 各部の名称とはたらき	
1. 本体制御部	4~5
2. センサー部	5
IV 設置工事	
1. センサー部の取付場所	6
2. センサー部の取付方法	7
3. 本体制御部の取付方法	8
4. 凍結温度センサーの取付方法	9
5. 電気配線	9~10
V 動作の説明	
1. 自動運転	11
2. 凍結運転	12
3. 手動運転（時限式タイマー）	12
4. 手動運転（時限式タイマーなし）	12
5. 各種設定	13~14
6. 運転モード	14
VI 試験・点検	
1. 自動運転の試験	15
2. 凍結運転の試験	16
3. 手動運転の試験（時限式タイマー）	16
4. 手動運転の試験（時限式タイマーなし）	16
5. センサー部の試験	17
VII 表示	
1. 積算運転時間	18
2. エラー表示	18
VIII 保守	19
IX 保証	20
X トラブル・対処方法	21
メモ	22~24
仕様書	25
アフターサービスについて	裏表紙

はじめに

この度は、省エネ型降雪センサー『間欠運転方式 **Hiikari スノコン**』をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

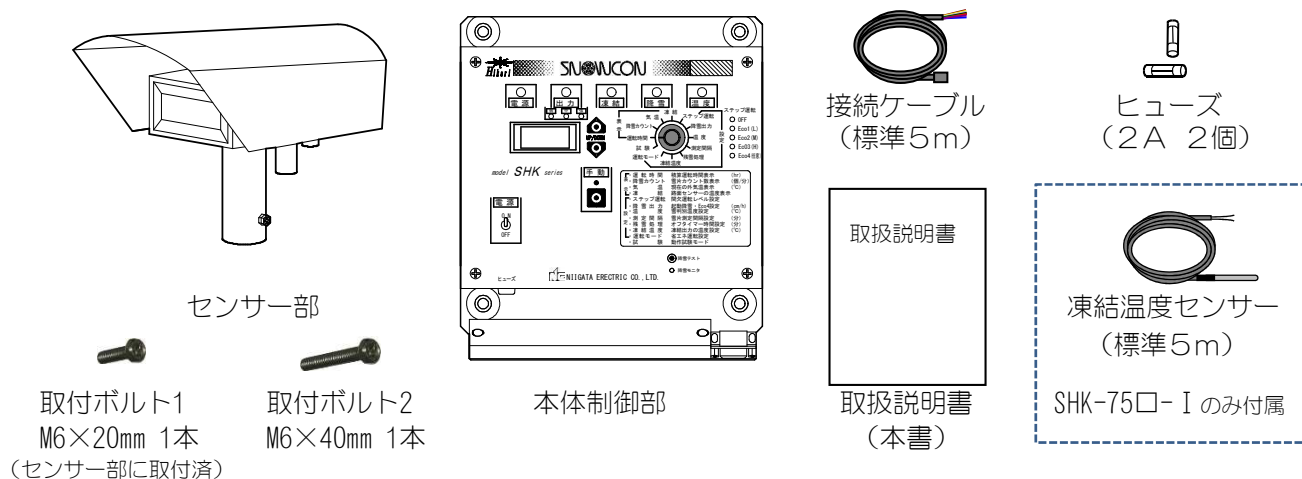
本製品は、消融雪システム用のセンサーとして開発したものです。

ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、正しく最適にご使用いただきますようお願い申し上げます。

『間欠運転方式 **Hiikari スノコン**』には次のような特長があります。

- I. 検知方式 赤外線検知方式で降雪 flakes を直接検知し、強風雪でも確実に降雪を捉えます。更に温度センサーを組み合わせることで、雨や朝霜による誤動作はほとんどありません。
- II. 耐候性 センサー部には耐候性プラスチックとステンレス鋼板を使用しており、防錆、耐候性に優れています。
- III. 間欠運転 降雪強度に応じて大雪・中雪・小雪を判定し、中雪・小雪では間欠運転を行います。
- IV. 省エネ運転 気温が高いときの降雪時には、当社独自の温度補正機能で運転時間を短縮させるので、節水・節電運転になります。
- V. 残雪処理時間 降り止んでから一定時間（1分～3時間任意設定可能）出力を保持します。
- VI. 凍結信号出力 気温低下時に、温度条件のみで出力することができるため、無散水融雪設備及びロードヒーター融雪設備等で、凍結防止運転が可能です。（**散水融雪設備では使用しないでください**）設定範囲は-10℃～+10.0℃まで可能です。
- VII. 時限式手動 手動運転に時限式タイマーを内蔵。設定した時間後、出力が停止します。（時限式タイマーなしの手動運転も可能です）
- VIII. 電源 電源電圧はAC100/200V兼用です。
- IX. 点検 「試験」モードにより本体制御部の動作確認が容易にできます。
- X. 保守 機械的可動部が無いため故障が少なく、夏期でも電源を切るだけで、センサー部を格納する必要はありません。



製品の構成（開梱後、ご確認ください）





I 警告表示について

ここに表示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取扱いをすると生じることが想定される危害や損害の内容を「警告」、「注意」に区別しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

表示の説明

警告用語	意味
 警告	取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重症を負う危険な状態が生じることが想定される場合に使用します。
 注意	取扱いを誤った場合に、使用者が軽症を負うかまたは物的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定される場合に使用します。
注 記	特に注意を促したり、強調したい情報について使用します。

図記号の説明

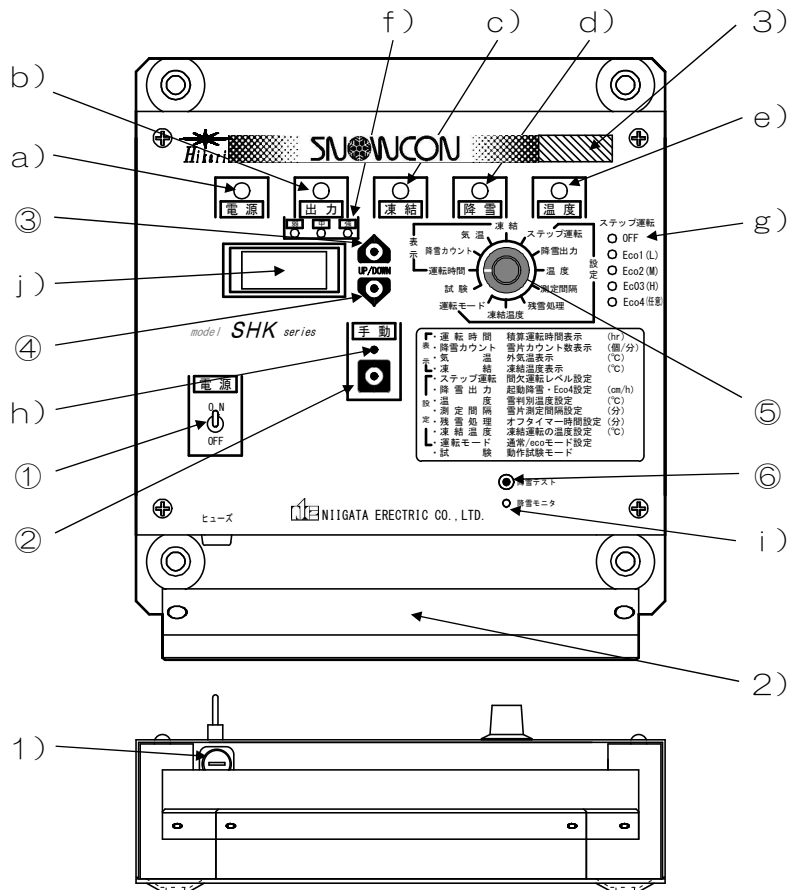
	禁止（してはいけないこと）を示します。 具体的な禁止内容は、記号の近くに絵や文章で指示します。
	強制（必ずすること）を示します。 具体的な強制内容は、記号の近くに絵や文章で指示します。

II 安全上の注意

 警告	<ul style="list-style-type: none"> ・ご使用になられる前に仕様書をご確認のうえ、取付け工事を行ってください。仕様から外れた範囲ではご使用にならないようお願いいたします。ご使用になりますと故障やけがまたは、感電や漏電、火災などの原因になります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・取付け前に外形図、カタログ等で質量及び形状を確認し安全に作業を行ってください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品を持った状態での取付け穴加工は危険です。絶対に行わないでください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って正しく行ってください。誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・接地工事は必ず行ってください。故障や漏電の時に感電する恐れがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・接地線は絶対に電源につながらないでください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・感電防止のため、結線作業は融雪ポンプ制御盤等の電源を必ずOFF（開）にしたうえで、電気技術者が行ってください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間ご使用にならない場合は、電源を遮断してください。絶縁劣化すると感電や漏電、火災の原因となります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理改造を行わないでください。感電、火災または異常動作してけがをすることがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・点検前に必ず電源を切ってください。通電状態で出力停止をしている場合があります。 	
 注意	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品は消融雪システムに使用される機器です。他の用途にはご使用にならないでください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品は非防爆構造ですので、防爆エリア内ではご使用しないでください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・有資格者により施工監理を行ってください。感電、けが及び故障の恐れがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・関連図書を良く理解してから据付、配線工事を行ってください。感電、故障の恐れがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品の取付けには、保守点検に便利な場所をお選びください。また強固に取付けてください。不安定な取付けは故障の恐れがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・制御電源線（R, S）、出力線または接続ケーブルは所定端子に必ず接続してください。間違って接続すると故障の原因となります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・各々の接続端子がいずれもゆるんだり、外れたりしていないことをご確認ください。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品に毛布や布などをかぶせたりしないでください。過熱して発火することがあります。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・電気技術者以外の方は、絶対に絶縁抵抗を測定しないでください。測定方法を誤ると、電子機器を破損させます。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・本製品の絶縁抵抗測定を行う場合は必ず250V以下の絶縁抵抗計をご使用ください。 ・制御盤等の絶縁抵抗測定を250V超えの定格測定電圧を印加して行う場合は、必ず本製品の電源スイッチをOFFにしてから測定してください。 	

Ⅲ 各部の名称とはたらき

1. 本体制御部



【スイッチ】

- ① 電源スイッチ 電源を入れるときは「0 N」側に、電源を切るときは「OFF」側に倒してください。0 N/OFFに合せて電源ランプが点灯、消灯します。
- ② 手動スイッチ 強制的に降雪信号を出力させます。手動運転中は手動ランプが点灯します。時限式タイマーの有無を選択できます。（12頁・3・4項をご参照ください）
- ③ ▲スイッチ 設定値を増加させるときに使用します。
(UP)
- ④ ▼スイッチ 設定値を減少させるときに使用します。
(DOWN)
- ⑤ ダイヤルスイッチ 各種表示・各種設定・動作試験モードを切替えます。

運 転 時 間	積算運転時間表示	(hr)
表 示	降雪カウント	雪片カウント数表示 (個/分)
	気 温	外気温表示 (°C)
	凍 結	凍結温度表示 (°C)
設 定	ステップ運転	間欠運転レベル設定
	降 雪 出 力	起動降雪・Eco4設定 (cm/h)
	温 度	雪判別温度設定 (°C)
	測 定 間 隔	雪片測定間隔設定 (分)
	残 雪 処 理	オフタイマー時間設定 (分)
	凍 結 温 度	凍結運転の温度設定 (°C)
	運 転 モ ー ド	通常/ecoモード設定
試 験	試 験	動作試験モード

- ⑥ 降雪テストスイッチ 動作試験モード時、1回押す毎に降雪カウント数が1ずつ加算されます。

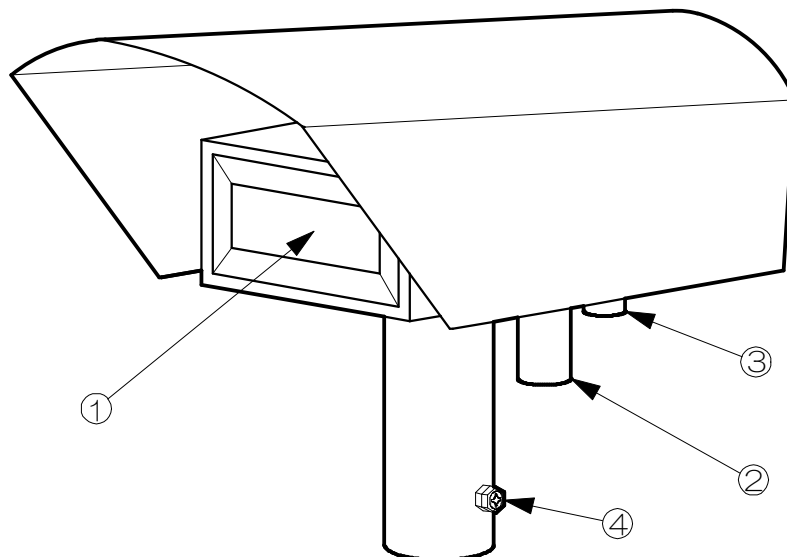
【表示】

- a) 電源ランプ [緑]電源スイッチを「0 N」にすると点灯します。
- b) 出力ランプ [赤]降雪信号が出力すると点灯します。
- c) 凍結ランプ [赤]凍結信号が出力すると点灯します。
- d) 降雪ランプ [赤]設定値以上の降雪になると点灯します。
- e) 温度ランプ [赤]外気温度が設定値以下になると点灯します。
- f) 弱ランプ [赤]降雪強度「弱」（間欠運転）での運転中に点灯します。
中ランプ [赤]降雪強度「中」（間欠運転）での運転中に点灯します。
強ランプ [赤]降雪強度「強」（連続運転）での運転中に点灯します。
- g) OFF [赤]ステップ運転「OFF」（連続運転）設定時に点灯します。
Eco1 (L) [赤]ステップ運転「Eco1」（弱0.4cm/h, 中0.7cm/h, 強1.0cm/h）設定時に点灯します。
Eco2 (M) [赤]ステップ運転「Eco2」（弱0.5cm/h, 中0.9cm/h, 強1.3cm/h）設定時に点灯します。
Eco3 (H) [赤]ステップ運転「Eco3」（弱0.6cm/h, 中1.1cm/h, 強1.6cm/h）設定時に点灯します。
Eco4 (任意) [赤]ステップ運転「Eco4」（任意）設定時に点灯します。
- h) 手動ランプ [赤]手動運転時に点灯します。
- i) 降雪モニタランプ [赤]雪片を検知したとき、または降雪テストスイッチを押したときに点灯します。
- j) デジタル表示各種表示・各種設定値・エラーコード等を表示します。

【その他】









- 1) ヒューズ電源ヒューズです。（2A）
- 2) 端子台電源線・出力線・接続ケーブル等を結線する端子台です。
（結線は9～10頁をご参照ください）
- 3) 製造番号/型番製造番号と型番が記載してあります。

2. センサー部



- ① 投・受光検知部雪片を検知します。気温が+5.0℃以下になると雪片の検知を開始し、
（ガラスヒーター内蔵） +3.0℃以下になるとガラス面にヒーターが入ります。
- ② 温度センサー外気温度を測定します。
- ③ コネクター専用の接続ケーブルを接続する防水コネクターです。
- ④ 固定用ボルトセンサー部を取付金具に固定するM6×20mmボルトです。M6×40mmボルトも付属されていますので、7頁をご参照し取付けてください。

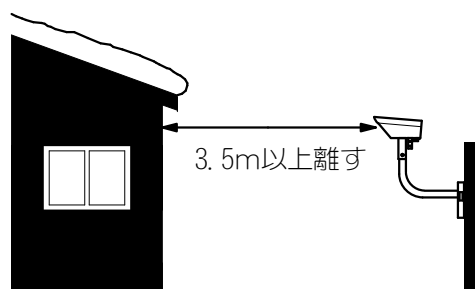
IV 設置工事

 警告	・取付け前に外形図、カタログ等で質量及び形状を確認し安全に作業を行ってください。	
	・本製品を持った状態での取付け穴加工は危険です。絶対に行わないでください。	
	・感電防止のため、結線作業は融雪ポンプ制御盤等の電源を必ずOFF（開）にしたうえで、電気技術者が行ってください。	
 注意	・有資格者により施工監理を行ってください。感電、けが及び故障の恐れがあります。	
	・関連図書を良く理解してから据付、配線工事を行ってください。感電、故障の恐れがあります。	
	・本製品の取付けには、保守点検に便利な場所をお選びください。また強固に取付けてください。不安定な取付けは故障の恐れがあります。	

注 記	・取付け後に不要となりました梱包材の処分は、専門業者へご依頼ください。
------------	-------------------------------------

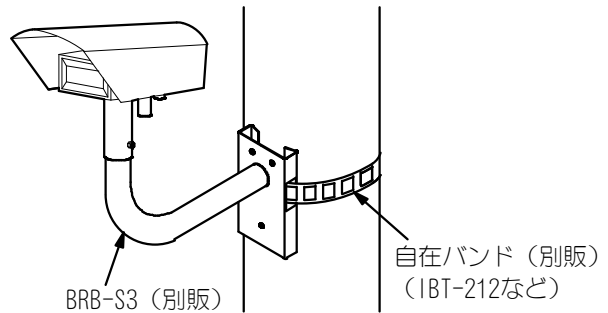
1. センサー部の取付場所

- ① 屋外で降雪を確実に捉えられる所に取付けてください。
 - ② 取付けの高さは、降雪を確実に捉えるため『地上2.5m～5m』の範囲で取付けてください。
(地上に近いほど降雪の捕捉は良くなります)
 - ③ 正常な降雪を検知できない所(例えば樹、屋根のひさし、電線等の下)は避けてください。
 - ④ 投・受光検知部の**前方3.5m以内**に、**信号光を反射させる物や壁が無い場所**に取付けてください。
(窓ガラスや反射の大きい外壁等に投・受光検知部を向けた場合、太陽光の反射により、3.5m以上距離があっても信号光が反射し、**Er1**が発生する場合があります)
 - ⑤ 吹雪のときなど、投・受光部正面に雪が吹きつける所(特に北西向き)は避けてください。
- ※ 取付けの際は、電線その他周囲の危険物にご注意ください。



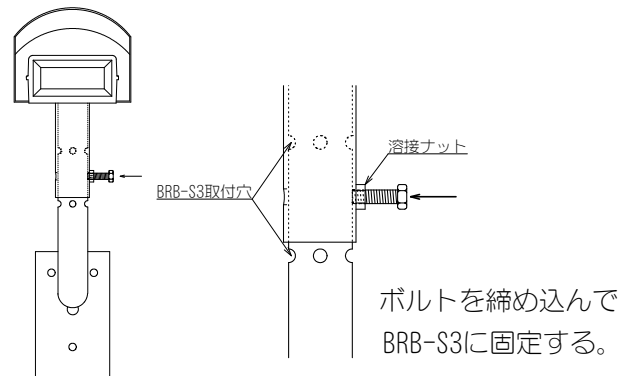
2. センサー部の取付方法

- ① 専用取付金具BRB-S3・自在バンド等（別販）を使用して取付けてください。

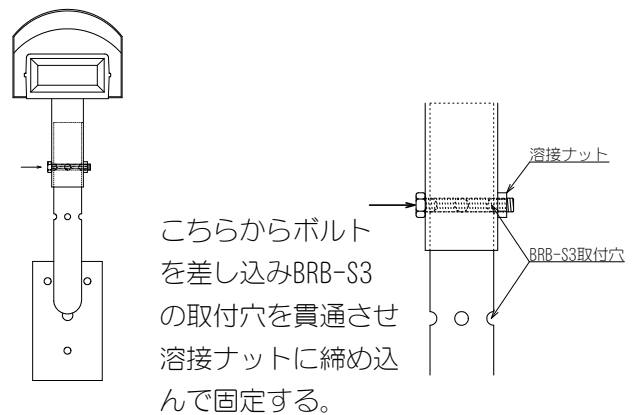


- ② センサー部を専用取付金具BRB-S3に取付する際は、下記どちらかの方法で取付けてください。

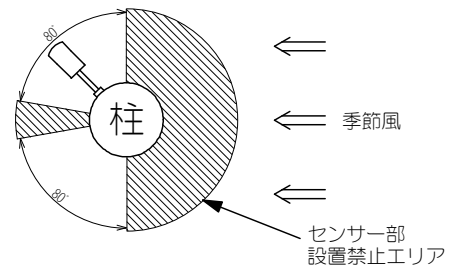
- a. センサー部に取付けてあるM6×20mmボルトを溶接ナットから外れない程度に緩め、センサー部をBRB-S3に奥まで差し込み、ボルトをドライバー等で締め込んでBRB-S3に固定する。
(BRB-S3の取付穴を避けて取付ける)



- b. センサー部に取付けてあるM6×20mmボルトを取り外し、M6×40mmボルトをセンサー部の取付穴とBRB-S3の取付穴を合わせて差し込み、BRB-S3の取付穴を貫通させ、ドライバー等で溶接ナットに締め込んで固定する。



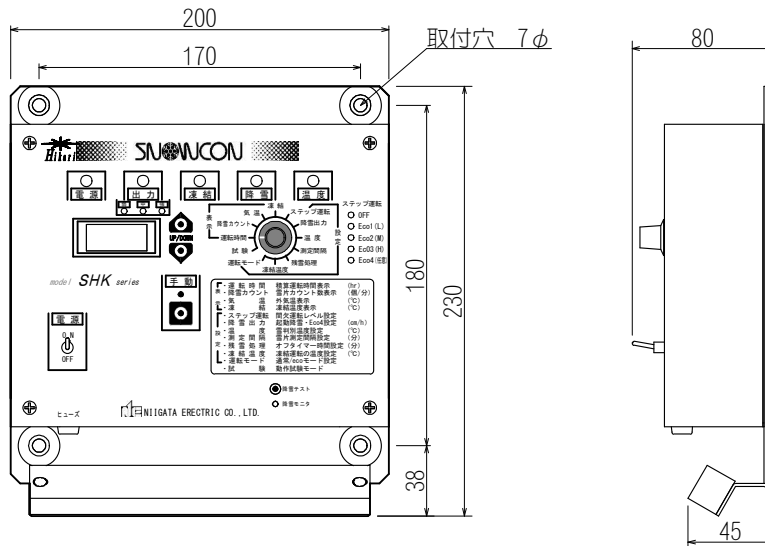
右図を参考にセンサー部の向きを決め、取付けてください。
また、センサー部の向きを変更する際は、接続ケーブルを外した状態で行ってください。
接続したままの状態ですと接続ケーブルがねじれ、断線する恐れがありますのでご注意ください。



3. 本体制御部の取付方法

(1) 制御盤内に取付ける場合 (SHK-751/751-I)

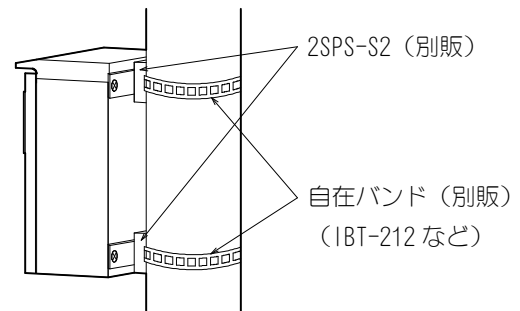
- ① 下記寸法に合わせて取付け穴を開けて取付けてください。*
- ② サージ等の障害波の影響を避けるために、消融雪制御盤の主マグネットスイッチとはできるだけ離れた位置に配置するか、遮蔽板を設けてください。



* 従来型のスノーコンと取り替える場合は、専用取付金具 HK-1 を使用することで取付け穴を開けることなく取付けることができます。

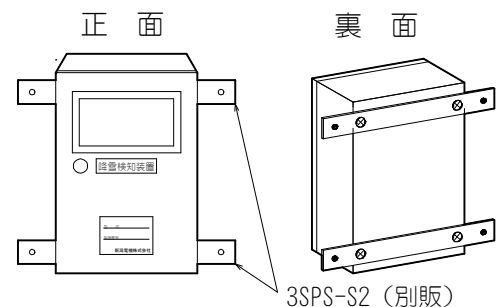
(2) 屋外取付型・屋内外兼用型を電柱に取付ける場合 (SHK-752/752-I / 754/754-I)

- ① 別販の専用取付金具2SPS-S2を、本体ボックス背面の取付け穴2箇所、上下それぞれ取付けてください。
- ② 自在バンド等を使用して、電柱に取付けてください。



(3) 屋外取付型・屋内取付型を壁面に取付ける場合 (SHK-752/752-I / 753/753-I)

- ① 別販の専用取付金具3SPS-S2を、本体ボックス背面の取付け穴2箇所、上下それぞれ取付けてください。
- ② 3SPS-S2の取付け穴を使用して、壁面に取付けてください。



(4) 屋内外兼用型を壁面に取付ける場合 (SHK-754/754-I)

- ① 本体ボックス背面の取付け穴を使用して、壁面に取付けてください。

4. 凍結温度センサーの取付方法 (SHK-75□-I 路面検知型のみ)










凍結温度センサーは破損しないように埋設してください。埋設の場所、深さにつきましては、融雪設備により異なります。設置する融雪設備に適した場所を選定してください。

※ 凍結温度センサーは、標準で5mのケーブルが付属してあります。

ケーブルを延長される場合は当社純正品をご使用ください。(5m単位、最大50m)

※ ケーブルは保護管内に通線してください。

5. 電気配線

 警告	・配線工事は電気設備技術基準や内線規程に従って正しく行ってください。誤った配線工事は感電や火災の恐れがあります。	
	・接地工事は必ず行ってください。故障や漏電の時に感電する恐れがあります。	
	・接地線は絶対に電源につながらないでください。	
	・感電防止のため、結線作業は融雪ポンプ制御盤等の電源を必ずOFF(開)にしたうえで、電気技術者が行ってください。	
 注意	・制御電源線(R, S), 出力線または接続ケーブルは所定端子に必ず接続してください。間違って接続すると故障の原因となります。	
	・各々の接続端子がいずれもゆるんだり、外れたりしていないことをご確認ください。	
	・本製品の絶縁抵抗測定を行う場合は必ず250V以下の絶縁抵抗計をご使用ください。 ・制御盤等の絶縁抵抗測定を250V超えの定格測定電圧を印加して行う場合は、必ず本製品の電源スイッチをOFFにしてから測定してください。	

(1) 各部間との亘り線

各部間の亘り線と、ケーブル所要芯数及び最大亘長は次の通りです。

	所要芯数	太さ・他	最大亘長
〈本体制御部〉 - 〈消融雪制御盤〉	7	0.75 [□] 以上(注1)	特に制限なし
〈本体制御部〉 - 〈センサー部〉	7(シールドシース含)	専用ケーブル(注2)	50m(注3)

(注1) 電圧降下表により選定のこと。

(注2) 途中でフィルターを取り付ける等の加工を行わないこと。

(注3) 必ず当社専用延長ケーブルを使用し、本体制御部側でシールドシースを接地すること。

※各ケーブルは外にむき出しにせず、保護管内に通線してください。

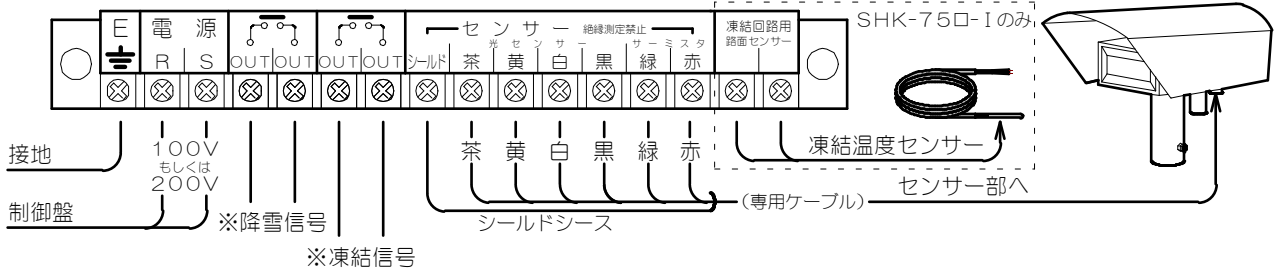
接続ケーブルを延長される場合の注意事項

- ・接続ケーブルを延長する場合は必ず『専用延長ケーブル』をご使用ください。途中でジョイント接続されると、ノイズ等の影響を受け、誤動作の原因となります。
- ・『専用延長ケーブル』は、5m単位、最大50mまで延長が可能です。
- ・結線の際には、本体制御部側でシールドシースを接地してください。

(2) 端子台及びセンサー部との結線

電源電圧をご確認のうえ、下図の通り結線してください。

※降雪信号、凍結信号は無電圧1 a 接点出力です。



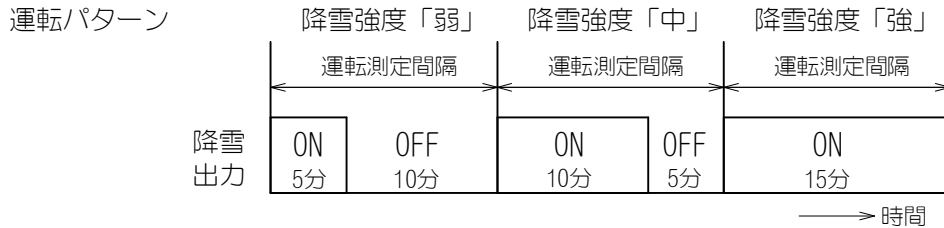
結線の注意事項

- ・ 消融雪システムの配線には、漏電ブレーカー（ELB）の設置が義務づけられています。
- ・ 本製品の電源は、必ずELBの2次側から結線してください。
- ・ 降雪信号、凍結信号の接点許容電流は、AC200V 2A です。それより大きい負荷を接続する場合は、必ず電磁接触器等をご使用ください。
- ・ 凍結信号を散水道路融雪設備に使用した場合、散水した水が流末で凍結し、交通事故を引き起こす恐れがありますので、ご使用にならないでください。

V 動作の説明

本製品は、設定した測定間隔（1～15分）間の雪片数をカウントし、その雪片信号と外気温の2つの要素で降雪を判断し、降雪信号を出力させます。

ステップ運転設定時は、降雪強度を「弱」「中」「強」の3段階で求め、「弱」以上で降雪信号を出力します。出力は15分間隔（運転測定間隔）で行い、降雪強度が「弱」「中」では運転間隔、「強」では連続運転を行います。その後は、運転測定間隔間で求めた降雪強度を、次の運転測定間隔間に降雪強度に応じて間欠運転・連続運転を行います。



1. 自動運転

【起動】

- ① 気温が+5.0℃以下になると雪片の検知を開始し、+3.0℃以下でセンサー部にヒーターが入ります。
- ② 気温が雪判別温度設定値以下になると、**温度ランプ**が点灯します。
- ③ 雪片を検知し、測定間隔間の降雪が降雪強度「弱」設定値以上になると、**降雪ランプ**が点灯します。
- ④ **降雪ランプ**と**温度ランプ**の両方が点灯すると、1分以内に**出力ランプ**が点灯し、同時に降雪信号が出力します。このとき、測定間隔間の降雪強度に応じて、**中ランプ・強ランプ**のどちらかが点灯し、（但し、起動時は判定より一つ上のパターンで運転するため、降雪強度「弱」では「中」を選択、降雪強度「中」「強」では「強」を選択します）降雪強度「中」の場合は間欠運転（10分運転5分停止）、降雪強度「強」の場合は連続運転（15分）を行います。同時に測定間隔間の降雪が降雪強度「弱」設定値以下になるため、**降雪ランプ**は消灯します。
- ⑤ ④での間欠または連続運転中（運転測定間隔15分）に降雪が続いて、降雪強度「弱」設定値以上になると**降雪ランプ**が点灯します。降雪が続いている間は15分間隔で降雪強度を判定し、それに応じた降雪強度「弱」（5分運転10分停止）・「中」（10分運転5分停止）・「強」（15分運転）のいずれかの運転を行い、同時に対応する**弱／中／強ランプ**のいずれかが点灯します。

※ 間欠運転中の降雪出力停止時は、出力ランプは消灯しています。

※ 0度以下での降雪出力は、霧による誤動作防止の為、1分毎に100カウント程度必要です。

【停止】

- ⑥ 測定間隔間の降雪が降雪強度「弱」設定値以下になると、次の測定間隔に移行したと同時に**降雪ランプ**が消灯、降雪強度「弱」または「中」の場合は間欠運転が終了し、**弱ランプ**または**中ランプ**が消灯します。降雪強度「強」の場合は、ここから残雪処理時間（オフタイマー）分だけ出力を保持します。
- ⑦ 残雪処理時間が経過した後**出力ランプ**と**強ランプ**が消灯し、同時に降雪信号が停止します。
- ⑧ 気温が雪判別温度設定値以上になると**温度ランプ**が消灯します。

2. 凍結運転

温度条件のみで凍結信号を出力させます。

初期設定では凍結運転は**OFF**になっております。

凍結運転をご使用の場合は、凍結温度の設定をお願いします。（13頁5項をご参照ください）

【起動】

- ① 温度センサー又は、凍結温度センサーの検知温度が凍結運転の温度設定値以下になると、**凍結ランプ**が点灯し、凍結信号が出力します。

【停止】

- ② 温度センサー又は、凍結温度センサーの検知温度が凍結運転の温度設定値プラス0.6℃（ヒステリシス）以上になると、**凍結ランプ**が消灯し、同時に凍結信号が停止します。

凍結運転を散水道路融雪設備に使用した場合、散水した水が流末で凍結し、交通事故を引き起こす恐れがありますので、ご使用にならないでください。

3. 手動運転（時限式タイマー）

【起動】

- ① **手動スイッチ**を押すと、**手動ランプ**と**出カランプ**が点灯し、同時に降雪信号が出力してデジタル表示は **030**（30分）を表示します。
- ② 運転時間は、**030**（30分）から最長 **800**（8時間）まで1時間以降1時間単位で設定できます。運転時間の設定は、**▲スイッチ**を押すと延長し、**▼スイッチ**を押すと短縮します。

【停止】

- ③ 設定した運転時間は1分ごとにカウントダウンし、デジタル表示が **000** になると**手動ランプ**と**出カランプ**が消灯し、同時に降雪信号が停止して自動運転へ戻ります。

※ 手動運転中に手動スイッチを押すと、手動ランプと出カランプが消灯し、同時に降雪信号が停止して自動運転へ戻ります。

4. 手動運転（時限式タイマーなし）

【起動】

- ① **手動スイッチ**を押したまま5秒経過すると**手動ランプ**と**出カランプ**が点灯し、同時に降雪信号が出力します。この時デジタル表示は **out** を表示します。

【停止】

- ② **手動スイッチ**を押すと**手動ランプ**と**出カランプ**が消灯し、同時に降雪信号が停止して自動運転へ戻ります。

時限式タイマーなしの手動運転中に停電があったり、電源を切った場合、次に電源が復帰した際は手動運転が継続となります。

時限式タイマーなしの手動運転を停止させる場合は、手動スイッチを押して停止させてください。

5. 各種設定

出荷時に初期設定をしていますので、取付け後は特に設定する必要がなくそのままご使用いただけます。

(1) 設定項目

本製品は、下記項目の設定を変更することができます。

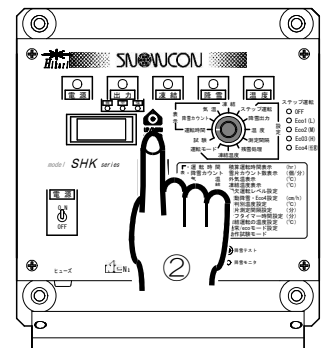
名称	初期設定値	動作説明	設定範囲
ステップ運転	Eco2	間欠運転のレベルを設定します。 12分（3）ステップ運転設定をご参照ください。	OFF Eco1~Eco4
降雪出力 (cm/hr)	0.5	設定値を減少させると起動が早くなります。 設定値を増加させると起動が遅くなります。	0.1~3.0
温度 (℃)	2.5	外気温度が設定値以下になると温度ランプが点灯します。	0.0~5.0
測定間隔 (分)	3	雪片を測定する間隔です。	1~15
残雪処理 (分, 時間)	3	降雪が止んだ後、残雪処理をするために 運転する時間です。	1~30(分) 100~300(時間)
凍結温度 (℃)	OFF	凍結温度が設定値以下になると凍結ランプが 点灯し、凍結信号が出力します。	-1.0~1.0 ON: 常時出力 OFF: 不動作
運転モード	ON	ON状態で温度補正機能が働きます。	ON/OFF

※ ステップ運転をEco1, Eco2, Eco3のいずれかに設定している場合、ダイヤルスイッチを降雪出力に合わせたとき、デジタル表示は を表示します。

※ 残雪処理設定は、1~30(分)は1分間隔で、100~300(時間)は30分間隔での設定になります。

(2) 各種設定の変更方法

- ① ダイヤルスイッチを設定変更したい項目に合わせます。
- ② ▲スイッチを押すと設定値が増加し、
▼スイッチを押すと設定値が減少します。
- ③ 設定値の変更が終わったら、次に設定変更したい項目に
ダイヤルスイッチを合わせ、②の方法で設定変更します。
- ④ 設定変更が全て終了したら、常時表示したい項目（運転時間等）に
ダイヤルスイッチを合わせます。



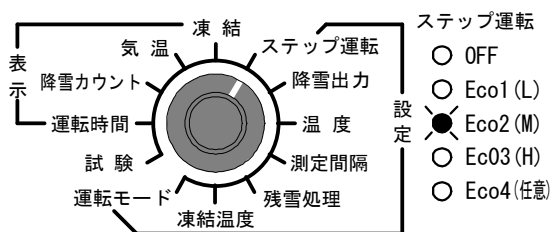
※ 変更した設定値は内蔵メモリーに書き込まれるため、電源が切れた場合でも保持されます。

(3) ステップ運転設定

ステップ運転設定は、下記の4つから選択できます。設置する場所に合わせて選定ください。
Eco4は、任意で設定変更が可能になります。（初期設定は「Eco2」です）

「OFF」	ON・OFF 運転（非間欠運転）
「Eco1(L)」	弱（起動）＝0.4 中＝0.7 強＝1.0 cm/h（設定値固定）
「Eco2(M)」	弱（起動）＝0.5 中＝0.9 強＝1.3 cm/h（設定値固定）
「Eco3(H)」	弱（起動）＝0.6 中＝1.1 強＝1.6 cm/h（設定値固定）
「Eco4(任意)」	弱（起動）＝0.6 中＝1.3 強＝1.9 cm/h（任意設定値に設定可能）

現在の設定値を、モニタランプで表示します。



(4) Eco4（任意）設定変更方法

- ① **ダイヤルスイッチ**を**ステップ運転**に合わせます。
- ② **▼スイッチ**を押して「Eco4(任意)」に設定します。
- ③ **ダイヤルスイッチ**を**降雪出力**に合わせると、デジタル表示に **St 1** が2秒表示した後「弱」設定値 **06** が表示しますので、**▲/▼スイッチ**で設定を変更します。
- ④ **手動スイッチ**を1回押すと、デジタル表示に **St 2** が2秒表示した後に「中」設定値 **13** が表示しますので、**▲/▼スイッチ**で設定を変更します。
- ⑤ もう1回**手動スイッチ**を押すと、デジタル表示に **St 3** が2秒表示した後に「強」設定値 **19** が表示しますので、**▲/▼スイッチ**で設定を変更します。
- ⑥ 設定の変更が終了したら、常時表示したい項目（運転時間等）に、**ダイヤルスイッチ**を合わせます。

※ 上記⑥の作業を行わなかった場合、60秒経過後、デジタル表示に **End** が表示した後自動運転に戻ります。

6. 運転モード

運転モード ON（出荷時初期設定）

気温が高いときの降雪時には、当社独自の補正機能で運転時間を短縮させます。
従って **OFF** 時に比べて、より節水・節電運転が可能となります。

運転モード OFF

気温が高いときの降雪時でも補正機能なしで運転しますので、積雪にならないような少量の降雪時でも運転させたい場合には選択してください。

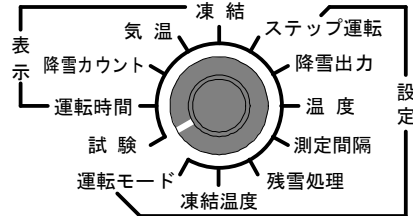
VI 試験・点検

※ 本体制御部とセンサー部の結線を確認した後、次の試験を行ってください。

1. 自動運転の試験

① 本体制御部の電源スイッチを「0 N」にします。

② **ダイヤルスイッチを試験**に合わせます。



③ デジタル表示が **EES** を表示した後、

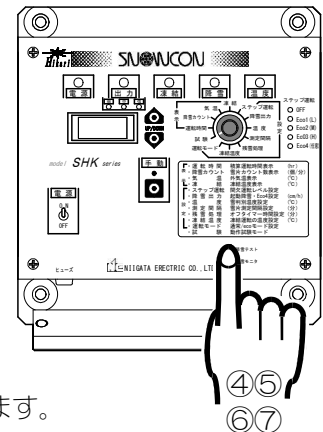
- → **--** → **---** の順で表示し、**EES** に戻ります。

④ 次に、**降雪テストスイッチ**を1回押すと**温度ランプ**が点灯します。

(デジタル表示は **1** を表示)

⑤ 更に、**降雪テストスイッチ**を9回(合計10回)押すと**降雪ランプ**が点灯します。

(デジタル表示は **10** を表示)



⑥ その2秒後に**出力ランプ**と**弱ランプ**が点灯し、同時に降雪信号が出力します。

⑦ 更に、**降雪テストスイッチ**を10回(合計20回)押すと**中ランプ**が点灯し、**弱ランプ**が消灯します。

(デジタル表示は **20** を表示)

⑧ 更に、**降雪テストスイッチ**を10回(合計30回)押すと**強ランプ**が点灯し、**中ランプ**が消灯します。

(デジタル表示は **30** を表示)

⑨ 降雪信号が出力されてから30秒後に**出力ランプ**、**降雪ランプ**、**温度ランプ**、**強ランプ**が消灯し、同時に降雪信号が停止します。

デジタル表示は積算運転時間表示に切替わり、自動運転へ戻ります。

※ 試験運転では、弱ランプまたは中ランプが点灯中でも間欠運転は行いません。

2. 凍結運転の試験

[SHK-75□-I (路面温度検知型)は、凍結温度センサーを直接触れることが可能な場合のみ有効]

- ① **ダイヤルスイッチ**を**凍結温度**に合わせ、凍結運転の温度設定値を **00** (0.0℃) に設定します。
- ② **ダイヤルスイッチ**を**凍結**に合わせます。
- ③ 温度センサー又は、凍結温度センサーを雪で覆うか、急冷スプレーをかけます。
- ④ デジタル表示が **00** (0.0℃) 以下になると**凍結ランプ**が点灯し、同時に凍結信号が出力します。
- ⑤ 温度センサー又は、凍結温度センサーを雪で覆った場合は雪を取り除きます。
- ⑥ 手で温度センサー又は、凍結温度センサーを暖めます。
- ⑦ デジタル表示が **06** (0.6℃) 以上になると**凍結ランプ**が消灯し、同時に凍結信号が停止します。

※ 温度センサーを雪で覆って試験をする場合、外気温度が高いときは温度が下がりきらず、0.0℃以下に下がるまで時間がかかったり、0.0℃以下に下らない場合があります。
その場合は、凍結温度を高く設定して試験を行なってください。

※ 凍結温度センサーが埋設されている等、直接触れることが不可能な場合は、上記試験はできません。

3. 手動運転の試験 (時限式タイマー)

- ① **手動スイッチ**を押すと、**手動ランプ**と**出カランプ**が点灯し、同時に降雪信号が出力してデジタル表示が **030** を表示します。
- ② 1分経過すると、デジタル表示が **029** になります。(1分毎にカウントダウンします)
- ③ デジタル表示が **000** になると**手動ランプ**と**出カランプ**が消灯し、降雪信号が停止して自動運転へ戻ります。またはデジタル表示が **000** になる前に**手動スイッチ**を押すことで、**手動ランプ**と**出カランプ**が消灯し、同時に降雪信号が停止して自動運転へ戻ります。

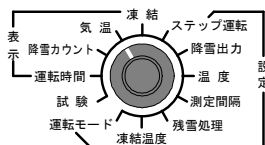
4. 手動運転の試験 (時限式タイマーなし)

- ① **手動スイッチ**を押したまま5秒経過すると**手動ランプ**と**出カランプ**が点灯し、同時に降雪信号が出力します。この時デジタル表示は、**out**を表示します。
- ② もう一度**手動スイッチ**を押すと、**手動ランプ**と**出カランプ**が消灯し、同時に降雪信号が停止して自動運転へ戻ります。

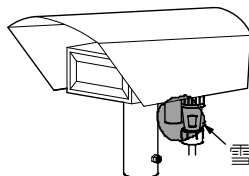
5. センサー部の試験

センサー部の投・受光検知部及び温度センサーの試験を行います。

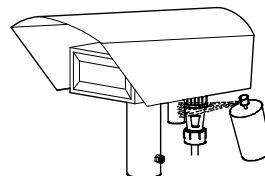
- ① **ダイヤルスイッチを気温**に合わせます。
デジタル表示は外気温度を表示します。



- ② 温度センサーを雪で覆うか、急冷スプレーをかけます。



雪で覆う

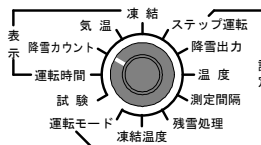


急冷スプレーをかける

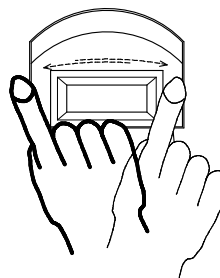
- ③ 本体制御部のデジタル表示が **5.0** (+5.0°C) 以下を表示していることを確認します。

※ 検知温度が-25°C以下まで下がると、デジタル表示が **Er2** を表示し、温度ランプが点滅します。

- ④ **ダイヤルスイッチを降雪カウント**に合わせます。



- ⑤ センサー部の投・受光検知部の前で指を左右に振ると、本体制御部のデジタル表示の数値が増えます。

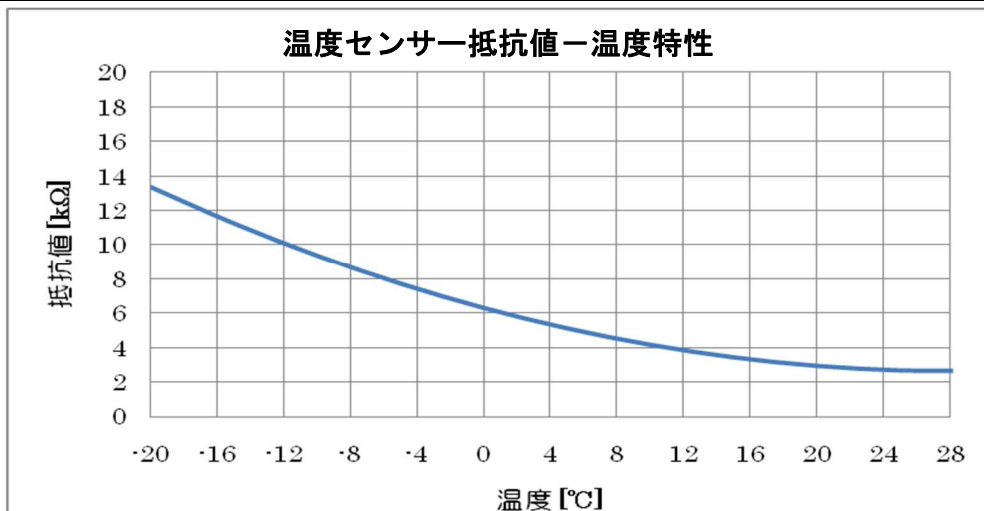


※ 温度センサーを雪で覆って試験をする場合、外気温度が高いときは温度が下がりきらず、+5.0°C以下に下がるまで時間がかかったり、+5.0°C以下に下らない場合があります。

雪や急冷スプレーがなく気温が+5.0°C以上の場合でも、センサー部の投・受光検知部の前で指を左右に振ると、本体制御部の降雪モニタランプが点灯します。

また、下表を参考に線間の抵抗値を測定することで、温度センサーの状態を確認することができます。本体制御部の電源を「OFF」し、端子台に接続してある接続ケーブルを外してから行ってください。

端子台	線色	接続回路	標準抵抗値	使用機器
緑・赤	緑-赤間	温度センサー	0°C … 約6.3kΩ 10°C … 約4kΩ 25°C … 約2.5kΩ	テスター



VII 表示

1. 積算運転時間

デジタル表示は通常、積算運転時間を表示しておりますが、ダイヤルスイッチを切替えることで、雪片カウント数（1分間隔間のカウント数）や現在の外気温を表示することができます。



【積算運転時間のリセットについて】

積算運転時間表示は、**999** 時間を過ぎると自動的に **0** に戻ります。

途中で積算運転時間をリセットさせたい場合は、積算運転時間が表示している状態で、▼スイッチを5秒間押しと **0000** を表示しその後、**0** に戻ります。

2. エラー表示

本製品は、投・受光検知部、温度センサー、凍結温度センサーに異常がみられたときは、デジタル表示に下記のエラーコードを表示し、該当する各表示ランプが点滅します。

デジタル表示エラーコード	表示ランプ点滅	原因
Er 1		投・受光検知部が10秒以上連続で検知したままの状態
Er 2 Er 3		温度センサー異常、温度回路不良 検知温度が-25℃以下、もしくは+40℃以上
Er 4 Er 5		凍結温度センサー異常、凍結回路不良 検知温度が-25℃以下、もしくは+40℃以上

※ **Er 4**、**Er 5** は路面温度検知型のみ

エラー表示が出た場合は、トラブル・対処方法（21頁）をご参照ください。

※ 降雪時に**Er 1**が発生した場合は、降雪々片を検知することが出来なくなるため、降雪信号は停止のままになります。

※ **Er 2** もしくは **Er 3** エラーが発生した場合、気温に関係なく雪片の検知を開始し、測定間隔間の降雪が起動降雪出力設定値以上になると降雪ランプが点灯し、1分以内に出カランプが点灯、同時に降雪信号が出カし降雪状況に応じて間欠運転を行います。測定間隔間の降雪がステップ運転設定値以下になると降雪ランプが消灯し、間欠運転後に降雪信号が停止します。

※ **Er 4** もしくは **Er 5** エラーが発生した場合、路面温度に関係なく凍結信号出力は停止のままになります。

Ⅷ 保守

1. 日常の運転

(1) 日常の運転状態（下記項目）に異常がないか確認してください。

平常と極端に異なる場合は、故障の前兆です。早めに処置することが大切です。




そのため、運転日誌をつけることをお勧めします。

- ① 周囲温度が仕様範囲に入っているか。
- ② 電源電圧値が仕様範囲に入っているか。
- ③ 表示ランプやデジタル表示が正常に表示するか。
- ④ ヒューズの熔断はないか。
- ⑤ 異常振動、異常音がないか。
- ⑥ 電気配線が変色していないか。また、異臭がしないか。

(2) 定期的に応記項目について点検し、補修又は点検・清掃を行なってください。



- ① 電気配線の端子ビスなど異常がないか
- ② センサー部の投・受光面が汚れていないか。（汚れている場合は柔らかい布等で拭いてください）

(3) 絶縁抵抗の測定



 注意	・電気技術者以外の方は、絶対に絶縁抵抗を測定しないでください。 測定方法を誤ると、電子機器を破損させます。	
	・本製品の絶縁抵抗測定を行う場合は必ず250V以下の絶縁抵抗計をご使用ください。 ・制御盤等の絶縁抵抗測定を250V超えの定格測定電圧を印加して行う場合は、必ず本製品の電源スイッチをOFFにしてから測定してください。	

- ① 測定は対地間だけとしてください。
- ② 相間絶縁測定は、本体制御部（電子回路）を破損させますので絶対行なわないでください。
- ③ 測定には250V以下の絶縁抵抗計をご使用してください。（250Vを超えた電圧は絶対に印加しないでください。250Vを超えた電圧で測定する場合は、必ず本製品の電源スイッチをOFFにしてから測定してください）

2. 長期間の運転停止

 警告	・長期間ご使用にならない場合は、電源を遮断してください。 絶縁劣化すると感電や漏電、火災の原因となります。	
--	--	---

3. メンテナンス

 警告	・修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理改造を行わないでください。 感電、火災または異常動作してけがをすることがあります。	
--	--	---

4. 保管

取付け前及び取外して保管する場合は、下記の通りにしてください。




- (1) ダンボールなどに収め、表示部やスイッチ類が破損しないようにしてください。
- (2) センサー部の投・受光面が傷つかないようにしてください。
- (3) 仕様書に示す周囲温度、雰囲気、湿気のない場所に保管してください。
- (4) 床に直接置かないでください。

IX 保証

当社は、本製品について次の保証をいたします。ただし当該保証は日本国内で使用される場合に限りです。

1. 本製品の保証期間は、納入日から1年間といたします。
2. 保証期間中、正常なご使用にもかかわらず当社の設計・工作等の不備により故障・破損が発生した場合は、故障・破損箇所を無償修理いたします。この場合、当社は修理部品代および修理のための技術員派遣費用を負担いたしますが、その他の費用は免除させていただきます。
3. ただし、以下のいずれかに該当する場合は故障・破損の修理は有償とさせていただきます。
 - (1) 保証期間経過後の故障・破損
 - (2) 正常でないご使用または保存により生じた故障・破損
 - (3) 火災・天災・地震等の災害および不可抗力による故障・破損
 - (4) 当社指定品以外の部品をご使用の場合の故障・破損
 - (5) 当社及び当社指定店以外の修理・改造による故障・破損
4. 保証についての当社の責任は上記の無償修理に限られるものとし、その他の費用の負担、損害についての責任は免除させていただきます。
5. 補修用部品の保有期間は製造中止後7年間です。

X トラブル・対処方法

 警告	・修理技術者以外の方は、絶対に分解したり修理改造を行わないでください。 感電、火災または異常動作してけがをすることがあります。	
	・点検前に必ず電源を切ってください。通電状態で出力停止をしている場合があります。	

お問い合わせや修理をご依頼される前に、ご確認ください。

症 状	お調べいただきたいこと
電源スイッチを「0 N」にしても電源ランプが点灯しない。	○配線・結線は正しく接続されていますか？ ○ポンプ制御盤のELBや3Eリレーなどの保護装置が働いていませんか？ ○本体制御部内にあるヒューズが切れていませんか？
雪が降っているのに降雪信号が出ない。 (消融雪システムが動作しない)	○気温が高めで、積雪にならないような降雪時には運転しない場合があります。(14頁6. 運転モードをご参照ください) ○ポンプ制御盤の運転切替スイッチが停止になっていませんか？ ○ポンプ制御盤のフロートレススイッチや3Eリレーなどの保護装置が働いていませんか？ ○出力ランプ・降雪ランプ・温度ランプは点灯していますか？ ○15～17頁「VI 試験・点検」をもう一度実施してみてください。 ○デジタル表示が Er 1 を表示していませんか？ ※0度以下での降雪出力は、霧による誤動作防止の為、初期設定で1分毎に100カウント程度必要です。
雪が降っていないのに降雪信号が出ている。 (消融雪システムが動作したまま)	○手動運転になっていませんか？ ○ポンプ制御盤の運転切替スイッチが手動になっていませんか？ ○凍結ランプが点灯(凍結信号が出力)していませんか？
デジタル表示が Er 1 を表示している。	○センサー部の投・受光検知部の前方3.5m以内に、壁や障害物等はありませんか？ ○センサー部の投・受光検知部に雪が付着していませんか？
デジタル表示が Er 2 または Er 3 を表示している	○接続ケーブルは各色とも誤りなく、本体制御部端子台の所定端子に結線されていますか？(10頁5. 電気配線 (2)をご参照ください) ○接続ケーブルのシールドシースは本体制御部側で接地していますか？ ○センサー部と接続ケーブルのコネクタは、確実に接続されていますか？ ○接続ケーブルをジョイントしていませんか？
デジタル表示が Er 4 または Er 5 を表示している	○凍結温度センサー接続ケーブルは誤りなく、本体制御部端子台の所定端子に結線されていますか？ (10頁5. 電気配線 (2)をご参照ください) ○凍結温度センサー接続ケーブルをジョイントしていませんか？

外気温度が+5.0℃以上のときは、降雪の雪片を検知しません。ご注意ください。

※上記方法でも症状が改善しないときは、恐れ入りますが、サービス代行店・販売店までご連絡ください。

メ モ

メ 毛

メ 毛

仕 様 書

- 1) 電 源 電圧 AC100/200V (兼用)
周波数 50/60Hz (兼用)
- 2) 動作温度 a) センサー部 -20 ~ +40℃
b) 本体制御部 0 ~ +40℃
- 3) 取付場所 a) センサー部 屋外
b) 本体制御部 制御盤内 (SHK-751)・屋外 (SHK-752/754)・屋内 (SHK-753/754)
..... 制御盤内 (SHK-751-I)・屋外 (SHK-752-I/754-I)・屋内 (SHK-753-I/754-I)
- 4) 検知方式 a) 構 造 光反射式
b) 特 性 雪片+気温
- 5) 主要制御回路 16ビットCPUによるマイコン制御 (フラッシュ・メモリー搭載)
- 6) 入力信号 a) 降雪検知 降雪々片からの反射光を検出 (カウント式)
検知距離 物体検知距離 約350cm
雪片検知距離 約80cm (擬似雪片2mm使用時)
b) 温度検知 サーミスタによる温度低下検出 測定範囲 -25~+40℃
- 7) 出力信号 a) 降雪信号 無電圧接点信号1 a接点 (接点許容電流 AC200V 2A)
b) 凍結信号 無電圧接点信号1 a接点 (接点許容電流 AC200V 2A)
- 8) 表 示 「電源」・「出力」・「凍結」・「降雪」・「温度」・「手動」・「降雪モニタ」・「3桁デジタル表示」
「弱」・「中」・「強」・「OFF」・「Eco1(L)」・「Eco2(M)」・「Eco3(H)」・「Eco4(任意)」
- 9) スイッチ 「電源」・「▲」・「▼」・「手動」・「降雪テスト」・「ダイヤルスイッチ」
- 10) 消費電力 a) 外気温度=+3.0℃以上の時 最大 3W
b) 外気温度=+3.0℃未満の時 最大 7W
- 11) 外観及材質

		型 番	SHK-751 SHK-751-I	SHK-752 SHK-752-I	SHK-753 SHK-753-I	SHK-753 SHK-753-I
項目	センサー部		本体制御部			
型番	F-3D		SHK-751S SHK-751S-I	SHK-752S SHK-752S-I	SHK-753S SHK-753S-I	SHK-754S SHK-754S-I
材質	ケース	AES樹脂	アルミ	SPCC		(本体) ABS樹脂
	金 具	SUS430 SUS304				(扉) アクリル樹脂
外観	ケース	ライトベージュ (近似マンセル5Y7/1)	マットブラック (近似マンセルN1.5)	ライトベージュ (近似マンセル5Y7/1)		(本体) ホワイトグレー
	金 具	ライトベージュ (近似マンセル5Y7/1)				(扉) ライトスモーク
重量	0.9 kg		1.0 kg	12 kg	10.5 kg	3.0 kg
寸法	高さ×横×奥行 180×110×210 mm		高さ×横×奥行 230×200×80 mm	高さ×横×奥行 455×305×222 mm	高さ×横×奥行 425×300×170 mm	高さ×横×奥行 425×280×161 mm

- 12) 付属品 a) 標準品内訳 ① 本体制御部 × 1 ② センサー部 × 1
③ センサー部取付ボルト1 M6×20mm × 1 ④ センサー部取付ボルト2 M6×40mm × 1
⑤ 上記間接続ケーブル 6°×0.5[□]×5mシールド付(屋外用コネクタ - 圧着端子) × 1
⑥ ヒューズ(予備) × 2
⑦ 取扱説明書(本書) × 1
⑧ 凍結温度センサー 2°×0.75[□]×5mシールド付 × 1 (路面温度検知型に付属)
- b) オプション センサー部取付金具: BRB-S3
本体制御部取付金具: HK-1 (制御盤内、従来スノーコン取替用)
2SPS-S2 (柱用), 3SPS-S2 (壁面用)

アフターサービスについて

本製品は出荷時に入念な品質検査を行っておりますが、万一異常があった場合には今一度、下記の事項を調査していただくようお願い申し上げます。

- * 電源スイッチがOFFになっていませんか？
- * 消融雪制御盤の運転切替スイッチが手動、または停止になっていませんか？
- * 制御盤のELBやフロートレススイッチ、3Eリレーなどの保護装置が働いていませんか？
- * センサー部の取付位置に問題はありませんか？
- * 配線・結線は正しく接続されていますか？
- * Xトラブル・対処方法(21頁)は確認していただきましたでしょうか？

※ 上記の事項がいずれも正常で、なお異常のあるときは下記事項をご確認いただき、サービス代行店または販売店までご連絡くださいますようお願い致します。

ご連絡していただきたい内容

1. お客様のお名前・ご住所・お電話（FAX）番号
2. 本製品の製造番号・型番 …… 本体制御部右上に記載してあります
3. 購入先と購入年月日
4. 不具合時の動作状況
5. 不具合時の本体制御部の表示ランプ、デジタル表示等

ご注意

次の場合、当社では責任を負いかねますので予めご了承ください。

- 使用上の誤り及び不当な修理や分解、改造による故障及び損傷
- 火災、地震、水害、落雷、その他天災地変、異常電圧、指定外の使用電源（電圧、周波数）などによる故障及び損傷

省エネ型降雪センサー



SHK-750シリーズ 取扱説明書 (Ver3.0.7)

間欠運転方式（凍結信号回路出力付） A4版発行

発行



〒940-1101 新潟県長岡市沢田1丁目3535-41

NIIGATA ELECTRIC CO., LTD.